

会議録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会第 20 回会議
開催日時	平成 15 年 7 月 17 日(木) 18 時 00 分から 20 時 00 分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 3 階庁議室
出席者	倉持委員、武田委員、竹内委員、堀越委員、山本委員、磯村委員、板垣委員、畑委員、小林委員(川村委員、永田委員、荒川委員欠席) (事務局) 池澤主幹、櫻井主査、安藤主任 (事務局支援) ㈱インテージ
議題	1. 西東京市総合計画策定審議会第 19 回会議録について 2. 西東京市基本構想・基本計画案について 3. その他
会議資料	(1) 重点プロジェクト案 (2) チャレンジテーマ案
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
倉持会長	本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。総合計画策定審議会第 20 回会議を開催いたします。ご連絡いただいているご欠席は川村委員です。
倉持会長	(西東京市総合計画策定審議会第 19 回会議録について) 第 19 回の会議録について、修正箇所はありますか。
A 委員	9 ページ下から 4 行目、「肥後」は「日野」の誤り、訂正をお願いしたい。
倉持会長	他には、よろしいか。 第 19 回の会議録は以上でご承認いただいたこととする。
倉持会長	(西東京市基本構想・基本計画案について) (1)重点プロジェクト案について 重点プロジェクトについて、前回皆さまからいただいた意見を事務局でまとめていただいた。事務局から説明をお願いします。
池澤主幹	お手元の資料 1 にそって、重点プロジェクトのご説明をさせていただきたいと思います。 前回の重点プロジェクト案の見直しをした部分についてご説明させていただきますが、その前に資料の一番後ろについております、重点プロジェクト推進組織の案ということで、これについて先にご説明をして、その後個々に重点プロジェクトの修正箇所についてご説明させていただきたいと思います。 前回いただいたご意見のなかで、4 つの重点プロジェクトにそれぞれ推進組織のようなものを立ち上げたほうがいいのではないかということがあり、

庁内でも検討させていただきました。重点プロジェクトについては、横断的に施策を展開していかなければならないということで、特定の所管部署が、推進委員会を事務局として所掌しますと、なかなか横断的に施策展開ができないのではないかとあります。そこで、1つ考えましたのがこちらの案で、4つの重点プロジェクト、これをすべて束ねるかたちの重点プロジェクトの推進委員会で、市民組織というかたちになっております、これをまず立ち上げて、プロジェクトの推進と進行管理、そして評価、ここでは、指標を定めますのでその評価まで、この推進委員会のなかでやってみたらどうかという案でございます。

組織の構成については各プロジェクトごとに、そこに関係をしております市民のかたとか、団体のかた、事業者のかた、こういった方々から3名ずつ、1つのプロジェクトごとに、こちらの委員会のほうにご参加いただいて、合計で12名で構成してみてもどうかという考えでございます。

任期は1年というふうに限定しておりますが、やはり重点プロジェクトという、市としても一番重要な事業を推進していく、また最終的にその事業の評価までするというので、あまり特定のかたが長い期間ここに携わって、いわゆる権威付けのあるような委員会のなかで、特定のかたが長い間携わってはどうかということもござります。そこで、できるだけ多くのかたにこの委員会にかかわっていただきたいということで、考えとしては任期は1年ということを出させていただいております。

プロジェクトの推進と進行管理のほか、評価を行い、次年度への引き継ぎを行うということで、1年間のなかで、それぞれの重点プロジェクトの目標設定から最終的な評価までをしていただいて、例えば、あるプロジェクトのなかで、こういった視点でまだまだ目標達成がされていないということであれば、それを次の年度の委員会のほうに引き継ぎをして、その次の委員会のなかではそういった部分をまた重点的に取り組んでいくという考えのもとに、こちらを書いております。このようなかたちで、市民推進委員会を立ち上げてみるかどうかと考えております。

こちらの市民推進委員会のほうは、主にプロジェクト全体をコーディネートするような役割をもっているということで、実際の事業の実行部隊については、こちらの表の左側に出しております、庁内推進委員会という、こちらを同じように立ち上げていきたいと思っております。この庁内推進委員会の組織については、各部1名程度というふうに載せておりますが、考えのなかでは、当て職ということではなくて、率先して市の重点プロジェクトに、自分のもっている事務のほか、横断的にかかわっていただけるような、そういう職員を是非このなかに取り込んで、市長をトップにこの庁内推進委員会をすすめていきたいと考えております。

ここの庁内推進委員会と市民推進委員会との連携ですが、庁内推進委員会については、市民推進委員会の会議に出席するということと、どのような事業展開をしていくのかとか、いま現在どのような事業展開をしているのかという評価について、それぞれ調査報告をするようなかたちをとっております。それに対して、市民委員会のほうは、意見とかアドバイス、こういったものを出しながら、その施策について考えかたを庁内推進委員会のほうに、コーディネートというような役割で携わっていただくという考えでおります。

庁内推進委員会につきましては、この市民推進委員会との連携のなかで、一定の事業について、担当部署のほうにフィードバックしまして、担当部署のほうではそれぞれ体制と役割分担を明確にするなかで、市、いわゆる行政

がやるもの、また市民に担っていただくもの、また事業者が担っていただくもの、そういったものを一つひとつ役割を明確にしながら事業の推進にあたっていくという、このような考えであります。

これが重点プロジェクト、4つのプロジェクトを束ねた推進委員会として、事務局については企画部企画課があたっていくという考えであります。この形が、横断的な施策展開をするなかでは機能的に動かすことができる組織ではないかと考えております。これについてもご意見をいただければと思っております。

資料の1枚目にお戻りいただきまして、こういった組織を前提に重点プロジェクトをすすめていくわけですが、今回はコンセプトと目標と具体的な取り組みというのが載っておりましたが、これは前のページのほうで同じ内容が載っておりますので、これを削除いたしました。まず1つは、主要施策の概要というのを載せています。これは西東京ブランド発信プロジェクトでいきますと、キーワードは西東京ブランドという表現になっております。それぞれの施策展開の図のなかでは、必ずキーワードとなるようなものを中央において、その周りに施策展開が出てくるという整理の仕方しております。西東京ブランドでいきますと、「ひと」に関するもの、「もの」に関するもの、「こと」に関するもの、というそれぞれの分野で西東京ブランドの確立をめざしていこうということです。

指標案につきましては、前回2つで、1つは感性に訴えるもの、もう1つは科学的に数値で表すことができるものというご意見いただきましたので、例えば指標案としては、1つは、西東京市に住み続けたいと考える人の割合、それともう1つは、西東京ブランドの数というものをあげております。西東京ブランドというのは、どういうものを西東京ブランドなのかという、こういった定義ですとか、目標数値、いくつを目標値とするのかとか、こういったものについては、重点プロジェクトの推進委員会のなかで決めていただくというように考えております。

主要施策の展開のなかでは、「ひと」の部分で、前回達人の発掘というようなご意見もいただきましたので、このなかには技能保持者、芸術家など、人材発掘を行うという項目を1つ載せております。

名産品、特産品については、地産地消の取り組みというなかで、直売所とか朝市など、こういったものの積極的な展開ということ載せております。以上が主な見直し箇所ということでございます。

最後に主要事業の展開というのがありますが、これにつきましては、主要施策の展開がこのかたちでいくということでご確認いただいたあと、この主要施策を展開する主要事業を、こちらのほうに列挙していきたいと考えております。今日はまず、主要施策の展開までご確認いただければと思っております。

次に2ページ目では、やすらぎグリーンプロジェクトです。

キーワードはみどり、自然、花というこの3つですが、特に前回、自然のふれあいとか、鳥とか昆虫とか、そういったものの視点も必要ではないかというご意見をいただきました。そういうことから、みどりと花の間に自然という、このキーワードを入れております。みどり、自然、花の活用、創出、しくみづくりをとおして、豊かな自然環境を実現するとともに、市民がそれらに親しめるような事業を展開していきますという内容です。

指標案につきましては、自然環境に対して満足している市民の割合、もう1つは、緑被率という、これを指標案として出しております。緑被率につきましては、いま現在策定をすすめております、緑の基本計画のなかで同じよ

うに緑被率を目標値として設定していこうという考えもありますので、できればこの緑被率ということで、総合計画と緑の基本計画、これと連携しながら目標設定していければと思っております。そういったことも含めたなかでの指標案であるということでございます。

主要施策の展開のなかでは、中央にみどり、自然、花という、これをおいております。これに向かってそれぞれの施策展開をしていくという内容です。特に前回いただいた、自然とのふれあいというなかでは、創出というなかの1つ目に、自然、人、生き物とのふれあいの場として、合併記念公園を整備していきますという内容になっております。合併記念公園の整備にあっても、生き物とのふれあいという、これが1つコンセプトになっておりますので、これを踏まえて、見直しをさせていただいたということでございます。以上がこちらの内容です。

次の3つ目の、いきいきチャレンジプロジェクトでございますが、キーワードは、チャンスアンドチャレンジということで、いろいろなこと、いろいろな機会があって、その機会を活用していろいろなことに挑戦できるという内容でございます。

市民が自己実現をめざして、いろいろなことにチャレンジする機会を提供していきますということと、もう1つは、施策の展開にあたっては、さまざまな部署や団体が行う事業の連携をすすめていくという内容です。

指標案は、生涯学習、生涯スポーツの環境に満足している人の割合、もう1つは、生涯学習、生涯スポーツへの参加延べ人数という内容です。

このなかで見直しをいたしましたのが、健康管理の視点というご指摘をいただきましたので、活用充実のなかに健康づくりのための活動ということをあらたに施策展開としてはおいております。文化活動、スポーツも含めまして、文化スポーツ振興財団との連携を図っていくという内容になっております。世代間交流のなかでは、具体的な取り組みとして、ふれあい給食のような事業展開にも取り組んでいくようなことで考えております。生涯学習につきましては、人材情報の整備だけではなくて、活用の視点も入れておまして、生涯学習人材活動情報の整備、活用という表現にしております。ボランティアセンターの円が、前回離れておりましたので、今回重ねて表現をしております。連携をしていくという内容でございます。以上が3番目のいきいきチャレンジです。

最後にふれあいサポートプロジェクトです。

これについて、前回目標のなかでは、コミュニティの再生という部分のご指摘をいただきまして、「創造」という表現を入れたほうがいいのではないかとということで、いま見直しをしております。できればコミュニティの再生と創造を1つにまとめまして、「コミュニティの醸成」というような一言で表現してみてもどうかと思っております。これについては、次回見直し案のなかでお示ししたいと思っておりますので、そのなかでまたご意見いただければと思います。

このふれあいサポートにつきましては、キーワードはコミュニティということですが、安心安全のまちづくり、困りごとサポートのしくみづくり、ふれあいのまちづくり事業などをすすめていきますという内容です。

指標案といたしましては、地域のなかで支えあうしくみができていると思う人の割合、もう1つは、地域活動に参加している市民の数という、この2つです。

主要施策の展開のなかでは、コミュニティを中心におきまして、ふれあいまちづくり事業、安心安全のためのしくみづくり、困りごとサポートのしく

	<p>みづくり、こういった施策を展開していくということで、この施策展開については、特段見直しはしていません。</p> <p>以上が 4 つの重点プロジェクトの主な見直し箇所ということでございます。ご説明は以上です。</p>
倉持会長	<p>これからご意見を伺っていく。説明のあった順番で、最初に重点プロジェクトの推進委員会の案について、そのあと各プロジェクトごとにご意見をいただく。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>それぞれの項目ごとに検討委員会をというご意見に対して、全体を総合化するということだと思うが。</p>
B 委員	<p>大変結構だと思うが、ポイントは庁内推進委員会と重点推進委員会の連携だと思う。庁内推進委員会は、何人ぐらいを想定しているのか。</p>
池澤主幹	<p>いまのところ、各部 1 名ということですので、9 部ございますから、人数としてはだいたい 10 名ぐらいと考えております。市長を入れて 10 名ぐらいの組織ということですか。</p>
B 委員	<p>本来であれば、重点プロジェクト推進委員会と一緒にやったほうがいいと思うが、いろいろ難しい点もある。連携ということで、必ず重点プロジェクト推進委員会には、庁内推進委員会のかたが出席して、同じ立場で発言をするということを前提にしてもらえばいい。</p>
C 委員	<p>質問というか確認をしたい。重点プロジェクト推進委員会というのは、各プロジェクトに委員会があって、そのなかから集まったメンバーであるということか。</p>
池澤主幹	<p>それぞれの重点プロジェクトでは組織はつくらずに、4 つの重点プロジェクトを束ねて、この 1 つの推進委員会をつくってはどうかというご提案です。</p>
C 委員	<p>各プロジェクトから 3 名ずつというのはどう理解すればいいのか。</p>
池澤主幹	<p>例えばブランドでいきますと、有機農業やっているかたとか、市民まつりやっているかたとか、そういうかたがいらっしやったり、やすらぎグリーンであれば、公園ボランティアやってらっしゃるかたがいらっしやったり、いきいきチャレンジでいくと、ボランティアやっているかたがいらっしやったりということですか。</p>
倉持会長	<p>そういう意味ではなく、各プロジェクトに何名かいて、そのなかから 3 名が出ると考えられたと思う。そうではなく、各分野から 3 名出るとのこと。</p>
B 委員	<p>各プロジェクトで比較的専門性のあるかたを 3 名ずつ選ばれて、それを全部合計して 12 名でこの委員会を立ち上げるということか。</p>
池澤主幹 D 委員	<p>そうです。</p> <p>4 つのプロジェクトを 12 人みんなが共有するということが。</p>

池澤主幹	そうです。
E 委員	<p>重点プロジェクト推進委員会の位置付けは、諮問機関か執行機関か。評価などを行うなら、かなり権限がないと、ただ単なる諮問で聞き置くというだけかどうかということで、委員の任命も違って来る。もしそれだけの権限をもたせるのなら1年では短い。専門的でないといけない。諮問機関として、市民参加だけなら1年でいいと思う。</p> <p>庁内推進委員会と重点プロジェクト推進委員会の位置付けをどうするのか。</p>
倉持会長	性格的には条例による付属機関なのか。
池澤主幹	条例ではないです。要綱設置による付属機関を考えております。
倉持会長	自治法上でいえば付属機関。執行権など、そういう権限まではない。
E 委員	ただ聞き置くだけなのか、意見に従ってやらないといけないという、歯止めがあるのか。
倉持会長	<p>要綱を定めるときに権威付けをしてもらう必要がある。</p> <p>年限の話があったが、私の意見としては、各分野から4名にして、半数ずつ毎年変わるというのはどうかと思う。同一人があまり長くいるのは好ましくないが、評価と継続性の問題がある。最初4名選び、4名のうち2名は任期1年、2名は任期2年、以降全部2年ということでやれば、継続性が保てる。</p>
F 委員	<p>各プロジェクトから3名ということだが、この文章だと、いまブランドのことをやっている分野、やすらぎのことをやっている分野があって、そこから3名選ぶととれる。</p> <p>これから新たにこういうことをやるから入ってくださいと頼むのか、市民の場合だと公募で呼びかけをしていくのか。</p> <p>評価までやるとなると、1年では無理。何年ぐらいのスパンで考えているのか。</p>
池澤主幹	<p>1つ目が、公募ということではなくて、重点プロジェクトに携わっている関係者のかたを中心に、この推進委員会にご参加いただきたいと思っています。あくまでもご自分で、農業ボランティアとか、市民まつりとか、そういうのに少しでも携わっているかたがこういう委員会に入ってきて、その中で、西東京ブランドだけのプロジェクトに施策展開は入っているけれども、違う面で、いきいきチャレンジのほうでも、自分のやっている活動というのは生かせるんじゃないかとか、そういう部分でいろいろご議論いただくということも、この重点プロジェクト全体を伸ばしていくうえでは大切なことではないかと思っています。</p> <p>これは10年の総合計画ですので、決して1年、2年で委員会終わるわけではなくて、この総合計画がある限り、この委員会というのは継続していくという考えでおります。</p>
倉持会長	他に。

C委員	プロジェクトごとに集まったものはないということか。
池澤主幹	ないです。
C委員	プロジェクトごとに推進委員会のようなものがあるといいと思ったのだが、認識が違っていたように思う。
F委員	3名でも4名でもいいが、その人たちが委員会に出る前に話し合わないと、混乱してしまうのではないかと。懇談会みたいなものを、委員が自分たちで設定してやればいいのだが、そこである程度プロジェクトごとのまとまったものをもって委員会に出ないと、意見がまとまらない気がする。
倉持会長	プロジェクトは1つのものではない。4つの分野に分けただけ。1つにした理由は、分けてしまうと関連性をもてないからという説明があった。花いっぱい運動とみどりや花の活用など、同じようなものがある。別のプロジェクトに載っているが分けることは難しい。 前回の意見のとおり、4つに分けたほうがいいという意見が多数であれば検討してもらおうが、ひとつにしたことについてはどうか。
C委員	4つ委員会があって、さらにこの1つが必要という認識だった。市民の立場としては、自分がプロジェクトに参加して、そのなかでの位置付けの確認と、それぞれ4つのプロジェクトがつながっているというのが、重点プロジェクト推進委員会で確認できる気がする。
倉持会長	プロジェクトという言葉の解釈の違いではないかと思う。 あくまで、題名としてプロジェクトとつけており、主要事業の展開、個々の事業が重点プロジェクトということ。そういう理解でないと言葉がおかしくなってしまう。西東京ブランド発進プロジェクトという、1つのプロジェクトをつくって、それが1つのチームを組んでやっていくという理解ではないと思う。そもそもこれができるとき、そういう位置づけだったと思う。
池澤主幹	重点プロジェクトというのは、4つ分けたというのは、そもそも理想のまちが4つあるということですが、たどり着くところは、「やさしさとふれあいの西東京に暮らしまちを楽しむ」という、この「わたしたちの望み」、これを実現するというのが目標ですから、そういう意味では、重点プロジェクトというのは一体として考えているということですが。 あえて4つの重点プロジェクトごとに委員会を別個にもつよりも、1つの委員会のなかで、お互いの関連性をいい意味で活用しながら、重点プロジェクトという1つの目標に向かってすすめていったほうが、機能的ではないか思っております。
倉持会長	いかがですか。どういう解釈をするにせよ、このかたちでいいのかどうか評価してください。解釈はそれぞれ自由だが、言葉の意味は私の言ったような意味に使っていると思う。一つひとつテーマごとにプロジェクトを組んで推進していくのではなく、ここで言っているプロジェクトというのは、主要事業一つひとつが重点プロジェクトという位置づけということである。
G委員	前回それぞれのプロジェクトで実行委員などができればいいということ

	<p>で、なるほど思ったが、それをまとめていくのにまた別の組織がいるのかと、それも大変なことだと思っていた。</p> <p>いろいろな分野のかたが集まって、いまの行政のなかで何に重点をおいてすすめていけばいいかという推進委員会は、いい案だと思う。一つひとつのところでグループができてしまうと、そのなかで勝手に突っ走って、あとから連携をとるのが難しいということもある。</p>
A 委員	<p>4 名で年度をだぶらせるのはいいと思う。</p> <p>各 4 名となると、ブランドを担当している 4 名は主としてブランドを担当するが、他のものにも意見が言えるということでもいいのではないかなと思う。</p>
倉持会長	<p>他には。</p> <p>4 つそれぞれにつくるべきだという意見もあるが。</p>
B 委員	<p>話を伺うまでは 4 つのプロジェクト委員会をつくって審議すると思っていた。4 つのメリットもあるのだろうが、重複する、錯綜するというデメリットもある。4 つにすると専門的に検討ができるだろうが、4 つの委員会を運営していくのも、調整していくのも大変。1 つでもやむをえないと思う。2 年交代というのはいいいと思う。</p>
倉持会長	<p>他に。</p>
E 委員	<p>1 つでいいと思う。各分野ごとには、主担当というか、3 名か 4 名が責任もってやっていく。全体的には 1 つの流れ。目指す方向は同じなので、1 つでいいと思う。</p>
C 委員	<p>1 つでいいと思ってきている。3 名が連携とってというのはどういう意味か。意見の連携がとれるということは、また何かあるような気がするが、そうではないのか。</p>
池澤主幹	<p>そうではない。特に 3 名が連携をとるということは必要ない。</p>
倉持会長	<p>私の提案はいかがか。4 名にこだわっていない。半数交代ということで偶数にしたが、あまり多くてもどうかと思う。</p> <p>半数交代はいいと思う。次年度でメンバーが変わってしまうと断続してしまう。そういうことでもいいか。</p>
C 委員	<p>市民、事業者、団代ということで 3 名となっていたが、比率が同じならいいと思う。</p>
G 委員	<p>進行管理、評価までと考えると 1 年間だと難しい気がする。せめて 2 年間が必要。</p>
倉持会長	<p>ご賛同いただいたとさせていただいて修正していただく。推進組織については以上。</p> <p>各プロジェクトについて、前回の意見を集約していただいている。西東京ブランド発進についていかがか。指標案など含めてご意見をいただきたい。</p>

	<p>達人、地産地消など入っている。だいたいご意見は網羅されているのではないかと思う。</p> <p>指標についてはどうか。</p> <p>前者は問題ないと思う。後者は適切かどうか。推進委員会で検討してもらわないといけない問題だと思うが。</p> <p>よろしいか。</p>
G委員	<p>わかりやすくよくなった。</p>
倉持会長	<p>2番目、やすらぎグリーンプロジェクト。</p> <p>緑被率は調査にお金がかかって無理ではないかと言ったが、緑化基本計画で毎年調べるそうなので、それがベストだと思う。</p> <p>生き物とのふれあいを合併記念公園だけに絞ったのはどうか。もっと幅広く、西東京市全体が生き物とふれあえるような場所であってほしい。</p> <p>東大の演習林などはバードサンクチュアリだろう。</p>
H委員	<p>一番下のみどりや花の創出のところ。合併記念公園を整備するとあるが、前にも合併記念公園が出ていて、合併記念公園ですべてカバーしようという意図はないと思うが、ここは合併記念公園というよりも、西東京市全体のみどりや花のまちにしたいので、ふれあいの場としての公園や緑地の整備をすすめるというような書きかたにしていきたい。</p>
倉持会長	<p>ここは表現を変えてください。</p>
E委員	<p>みどり、自然、花はだぶっているのでは。自然というと、花のみどりも入る。自然というのは重いので、自然とするなら、みどりと花をとらないといけない。みどり、自然、花では何を言っているのかわからない。</p>
倉持会長	<p>前回意見のあったように、生き物の意味だろう。生き物と入れるのもどうか。</p>
E委員	<p>自然とのふれあいとか。違和感がある。</p>
倉持会長	<p>羅列すると鳥、虫などとなる。自然をとって、みどり、花に戻すか。</p>
B委員	<p>花鳥風月とか。</p>
F委員	<p>みどり、花、鳥などというのはどうか。鳥ぐらい入れてもいいか。市の花とか市の鳥はあったが、市の虫はあるか。</p>
池澤主幹	<p>市の木、市の花だけです。旧市では市の鳥があったが、田無はなかった。</p>
倉持会長	<p>自然をとって鳥を入れるか。鳥で生き物を代表させる。修正をお願いする。他はどうか。指標など。よろしいか。</p> <p>3番目、いきいきチャレンジについて。</p> <p>細かいことだが、チャンスとチャレンジは結ぶべき言葉なのか。</p>
H委員	<p>主要施策の概要のキーワードについて。ここでチャレンジを使ってしまうと、チャレンジテーマとだぶってしまう。使っている言葉は同じだが意味が</p>

	<p>違うとなると、基本構想、基本計画のところでは誤解を招くのではないか。</p>
倉持会長	<p>あとで話題がでると思っていたが、どちらを変えるか。 あとでご審議いただくほうは、新市建設計画で決まっていることを推進していこうということで、個人的には、あとのほうを変えたほうがいいと思う。後ほどご意見いただきたい。 この段階では、こちらはチャレンジを残してということで。よろしいか。指標については。</p>
B委員	<p>学びということで、生涯学習の観点で学校施設はでてくるが、図書館や生涯学習施設については、既存施設の充実と書いてあるが、できれば図書館、学習施設という言葉を入れたほうがいい。学校施設だけだと、地域学習活動、総合型地域スポーツクラブと整合性がないような感じがする。 学びというのはいま、世の中のキーワードになってきている。そういう言葉を既存の施設のところにに入れてほしい。</p>
倉持会長	<p>上に個々の名称をいれて、下は学校施設「等」を入れるという方法もある。そのような趣旨でいいか。上も公民館や生涯学習施設だけでなく、福祉施設とか、その他の施設もすべて含めて有効に活用していくという目的があると思う。表現を工夫してください。</p>
池澤主幹	<p>検討させてください。</p>
倉持会長	<p>他には、よろしいか。 4番目、ふれあいサポートプロジェクトについて。 前回とほとんど変わってない。指標だけが絞られている。</p>
A委員	<p>困りごとサポートのスラッシュはどう解釈すればいいのか。困りごとについてサポートするしくみづくりなのか。 「しくみ」とわざわざひらがなにしている意味はあるのか。</p>
池澤主幹	<p>文章の繋がりとして、表現としてよくないので、これも見直しさせていただきます。 「しくみ」はすべてひらがなで統一しています。やさしくというようなこともあります。全ページをとおして、全部ひらがなにしております。</p>
H委員	<p>指標案のところ、「地域活動」の定義や目標数値は、「推進委で決定」と書いてある。他のプロジェクトでは検討となっている。直すのなら、他のプロジェクトと同じ表現にしたほうがよい。</p>
池澤主幹	<p>見直したいと思います。</p>
A委員	<p>上は「ふれあいのまちづくり」、下は「ふれあいまちづくり」になっている。</p>
C委員	<p>社会福祉協議会では「の」が入るのが正式である。</p>
倉持会長	<p>他には、よろしいか。</p>
(倉持会	<p>いくつかご意見いただいたのを修正していただいて、次回確認のために出</p>

長)	していただく。本件については終わる。
倉持会長	(2)チャレンジテーマ案について チャレンジテーマについて。説明をしてください。
池澤主幹	<p>チャレンジテーマですが、もうご存知と思いますが、新市建設計画の4つの重点施策、これがこちらのほうに載っております。新市建設計画は、主に合併記念公園であれば、公園を整備するという、これが新市建設計画の事業ですが、具体的にどのような事業展開をするのかということまでは定めておりません。したがって、今回、総合計画のなかでは、新市建設計画の重点事業、これをさらに発展をさせていこうということで、今回チャレンジテーマということで、設定させていただいております。また、この名称についても、先ほど重複するのではないかとご指摘をいただきましたので、またこれについてもご意見いただければと思っております。</p> <p>一つひとつのチャレンジテーマについて、ご説明をいたしますが、基本となっておりますのは、新市建設計画の事業であるということと、あとはそれぞれの事業ごとに、市民懇談会でありますとか、それぞれの、例えば地域情報化であると情報化基本計画の審議会、そういったところで審議された内容を踏まえて、つくっております。それぞれの担当部署のほうにも、確認をしているところですが、内容的にはそういうものを踏まえたものであるということをご承知いただきたいと思います。</p> <p>まず、1つ目の合併記念公園の整備ですが、これにつきましては、東大原子核研究所の跡地、45,000㎡を用地買収するというので、用地買収については、すでに13年度、14年度で完了しております。今年は面整備に入りまして、来年度いっぱいかけて公園整備工事を完了いたしまして、17年度オープンという予定です。ここの公園につきましては、13年度に市民懇談会を設置いたしまして、その市民懇談会のなかで、公園についてのコンセプトをつくりあげております。それを踏まえて載せておりますが、またこの審議会でも出てまいりましたご意見なども取り入れながら、全体の文章をつくりあげています。</p> <p>まず1つ目の施策の展開につきましては、市民との協働による愛される公園づくりということで、ここの中心となっておりますのは、公園ボランティアを立ち上げまして、この合併記念公園については、市民のかたが中心となった公園ボランティアで、公園の維持管理をしていただくという考えであります。</p> <p>2つ目が、市民のふれあう場としての公園づくりということで、この公園のなかで、子どもさんから高齢者のかたまでが、ふれあえる、交流できる、そんなイベントを取り入れていきたいと思っております。地産地消を取り入れた朝市も、モデル的に合併記念公園でやっていければと考えておりまして、担当部署のほうでもそのようなかたちで考えております。</p> <p>次が、誰もが楽しめる施設整備ということで、次のページになりますけれども、ちょうど公園入ってすぐのところ、パークセンターという拠点施設を建設する予定です。このパークセンターのなかでは、さまざまなふれあいとか、学習施設のようなものもできてまいりますので、そういった活用もしていただくかたちになると思っております。公園全体につきましては、バリアフリーとユニバーサルデザイン、こういった視点を取り入れていくという考えであります。</p> <p>次が、環境に配慮した施設整備ということで、やはりこの合併記念公園の</p>

整備については、環境に配慮した施設設計を取り入れていこうと考えております。したがって、太陽光発電などというものも、この合併記念公園には取り入れていく考えであります。この公園を活用して、自然観察とか、環境学習、こういったものに取り組むような機会もつくっていこうという内容でございます。

広域避難地としての機能整備ということで、ちょうど隣に東京大学の農場演習林がございますので、その広域避難地の機能を補う公園として、防災機能を備えるという内容でございます。

2つ目がコミュニティバスの運行ということですが、コミュニティバスにつきましては、平成14年の3月から市内4ルート、はなバスということで運行を始めております。平成15年の6月20日には、運行開始から1年3か月で利用者100万人達成ということで、市民のかたにも親しまれるようになってきているということでございます。

このコミュニティバスの今後の施策の展開につきましては、まず1つ目として、公共交通空白地域の解消、これが最大のはなバスの目的です。市内全体を見渡してみますと、公共交通の空白地域につきましては、田無駅の南西部地域、いわゆる芝久保の地域といわれているところです。もう1つは西武池袋線の北側の地域、下保谷、北町のあたりです。あと谷戸新道と都道233号線の間地域ということで、住吉町、泉町地域、このあたりが公共交通の空白地域といわれております。こういったところの解消に努めていくというのが、このはなバスの目的です。

2つ目が、都市計画道路の整備にあわせた将来運行ルートの増設ということで、今後市内に都市計画道路の整備がすすめられていきますと、その完成にあわせまして、公共交通空白地域の解消をめざして、新たなルート運行の検討を行っていくという内容です。特に保谷庁舎とひばりヶ丘駅周辺、これを結ぶルートについては、田無3・4・9号線と保谷3・4・8の1号線という都市計画道路がこの秋に開通する予定です。それに向けまして、この公共交通空白地域の解消を図るために、新ルートの早期実現をめざしていくという考えであります。

3点目が、市民の利便性の向上ということですが、このコミュニティバスはさまざまな市民のかたがたが利用されるということで、特に高齢者、子どもさん、障害者のかたなど、交通弱者のかたが気軽にバスに乗って移動ができるように、車両でありますとか、バス停周辺のバリアフリー化、こういったものをめざしていくという内容です。運賃につきましても、一律100円ということで、ワンコインについては、今後も維持に努めていくという考えであります。

最後、地域間移動における利用者増加に向けた取り組みの推進ということで、やはり財政負担を考えていきますと、当然利用者を増やしていくということが、最大の目的になってくると思います。そこで1つには、できるだけ多くのかたにご利用いただくということで、広報、PR活動、鉄道などのダイヤ編成等による運行時間の見直し、こういったものも適宜行っていくという考えであります。もう1つは、商店街と連携をした取り組み、こういったことも、利用者増に向けた取り組みとしては必要ではないかということです。例えば、商店街と連携した、買い物優待券の発行であるとか、はなバスのイベントの企画なども取り組んでいく考えであります。さらに、買い物だけではなくて、さまざまな資源、公園とか学校とか公共施設などにアクセスできるような取り組み、また散策ルートとのタイアップなども考えていきたいという内容でございます。

次の、3 つ目の地域情報化の推進でございますが、これにつきましては、いま地域情報化基本計画の審議会がすすんでおりまして、その審議会のなかで、一定確認された内容がこちらに載っております。地域情報化の計画のなかでは、切り口が4 つありまして、その4 つの切り口ごとに、施策の展開を載せております。

1 つが、イキイキ情報化といわれているものでして、これについては、保健、医療、福祉、こういった情報をシステムとして整備をしていこうというものです。これと、もう1 つは、災害情報システムの整備、そしてもう1 つは、環境情報のシステム整備の取り組みでございます。

2 つ目の切り口が、ワクワク情報化ということで、これにつきましては、学校にいま、情報化の整備をすすめておりまして、予定でいきますと、平成17 年度までに普通学級にも全校パソコンが整備されるような状況になります。保谷庁舎の隣の東分庁舎には、教育情報センターを整備しておりますので、そういったところと連携しながら、学校ホームページとか、学校間のインターネットを活用した情報通信などや、生涯学習情報をシステム化できればということで、先ほどの重点プロジェクトのなかにも、生涯学習情報の提供活用というのがありますが、そういった部分で情報システムの構築を図っていくというものです。

3 つ目の切り口が、キラキラ情報化です。これは、産業関係でいきますと、商店街のホームページの充実でありますとか、あとは、その商店と生活者とが連携した取り組み、また商店街の駐車場のシステム化、システムによるお知らせ、新市建設計画にもありますパズロケーションシステムの整備、そういったものがこちらのなかに入っております。

最後、ラクラク情報化ということですが、これについては、自動交付機の拡大でありますとか、電子申請、電子入札の取り組み、市のホームページの充実でありますとか、内部的なものとしては電子決済などの取り組みがこちらに載っております。

表現が、イキイキとか、ワクワクとか、キラキラとか、イメージ的にはこういう内容で、情報化審議会のなかで確認をされているということで、こちらのほうでもそのような表現を使わせていただいております。

最後になりますけれども、4 つ目のひばりヶ丘駅周辺のまちづくりの推進ということです。これにつきましては、現在までは南口、北口とも、整備構想の段階です。実際に事業着工しておりますのは、バリアフリー化の事業の一環として、ひばりヶ丘駅のエレベーター、エスカレーターの設定、自由通路の整備などに在り取り組んでおりますが、まだ駅周辺についてはどこも実際に着手しているところはございません。

まず、ひばりヶ丘駅の南口につきましては、亦六都営住宅というのが以前ございまして、そこの亦六の都営住宅の跡地を、いま現在、都市基盤整備公団が用地を取得しております。この都市基盤整備公団が、いま現在そこに開発計画をもっておりまして、そこの都市整備公団が開発を計画している用地の一部、900 m²を市が土地開発公社で既に先行取得しております。したがって、この先行取得をいたしました900 m²の用地を活用して、公共施設の導入とか、自転車駐車場の整備、これを図っていきたくて考えております。あわせて、バス通りから入ってきます、市道の整備が必要ではないかということで、市道たの221 号線と市道ほの312 号線、この拡幅整備を載せております。南北の連絡、横断手段といたしまして、都市計画道路の整備とペDESTリアンデッキ等の整備、このあたりを計画のなかには取り入れております。

	<p>最後、ひばりヶ丘駅北口でございますが、ひばりヶ丘北口は、階段降りますと商店街が密集しておりまして、それをまず整備するうえで必要なのは、北口の駅前広場と都市計画道路の整備が急務ではないかと考えております。特に埼玉県の新座市のほうは、西東京市との市境まで都市計画道路が整備されておりまして、この北口の整備にあたっては、北口の駅前広場からその新座市の都市計画道路、ここに接続する3・4・18号線線、この整備が必要ではないかと考えております。これにあわせまして、その商店街を形成しております市道の整備、市道ほの301号線、ほの315号線、ほの348号線、この市道整備が、拡幅整備をしていくことが必要ではないかという内容でございます。それ以外の南北との連絡、横断手段につきましては、先ほどの南口と同様でございますが、都市計画道路とペDESTリアンデッキ等の整備、これが必要であるというような内容でございます。</p> <p>以上が重点プロジェクトの4つの施策の展開ということでございます。</p>
倉持会長	<p>あまり我々の段階で修正できるものでもない。既にテーマは決まっています、それぞれ専門の委員会、審議会がすすめている。</p> <p>表現や何かについてご意見があれば。</p> <p>名称の問題はいかがか。確かにだぶって使っているといろいろな意味で誤解を受ける可能性がある。直したほうがいい気がする。</p>
H委員	<p>最近、基本計画のなかで、実際に実行に移すという段階の表現で、アクションという言葉を使っているところが多い。アクションというのも1つある。</p>
倉持会長	<p>行動計画のことをアクションと一般的言っている。</p> <p>他には。</p>
G委員	<p>発展させるということ、英語で何と言うか考えると、プログレスとかあるが、言葉に違和感がある。アクションという言葉を使う傾向にあるならいいのでは。アクションテーマとなるのか。</p>
H委員	<p>アクションという言葉は思いついたが、テーマとつづけるとどうかと思う。</p>
池澤主幹	<p>アクションだと、アクションプランとかアクションプログラムとか、そういう形で使います。</p>
H委員	<p>どちらかというと、この中身はテーマというよりもプログラムだと思う。時間軸のなかで、こうしようという考え方がされているので、アクションプログラムがびたっとくると思う。</p>
倉持会長	<p>他にどうか。ご賛同いただけますか。</p> <p>アクションプログラムと題名は変える。</p> <p>中身について、一括してお気付きのことがあれば。</p>
A委員	<p>テーマ4、ひばりヶ丘駅南口、北口について。</p> <p>それぞれの文章の最後5行がまったく同じなので、検討してほしい。</p>
倉持会長	<p>違和感がある。</p>

池澤主幹	南北の連絡というような位置づけで、もう1つここに3つ目のテーマ設定をして、それで南と北からはこの5行は削除して、最後に1本南北の連絡手段ということで、表現を整理させていただきたいと思います。
倉持会長	そうしてください。
D委員	記念公園について。 市民との協働によるということで、公園ボランティアは維持管理にあたるとなっている。記念公園はこのようにつくるということで決まっているのか。
池澤主幹	公園の整備は、もう市民懇談会でコンセプトを決めて、今年から面整備にはいっています。
B委員	<p>テーマにもどるが、アクションプログラムだと、一般的なプロジェクトのアクションプログラムという感じ。特にビックプロジェクトなので、4大アクションプログラムとつけてはどうか。</p> <p>感想、印象ということで一言ずつ。</p> <p>合併記念公園については、併記念の大きなプロジェクトであるということで、合併記念公園だけについてふれているが、西東京市全体の緑化計画のなかの位置付けなど、例えば、西東京市の都市公園の面積は1人あたり0.8と、全国平均の9㎡に劣る悲惨な状況だが、これにより嵩上げされる、将来的に日本は20㎡をめざすということだが、それに少しでも近づくなど、そういった視点からの書き方を入れたほうがいいのではないか。</p> <p>コミュニティバスについては、共交通空白地域ということで、さらに南北については重点的に配置しますと付け加えてほしい。</p> <p>地域情報化の推進については、インターネットを使った情報収集と発信は、主に官側からの発想になっている。もう少し市民レベルからの地域情報化として、インターネットに不慣れな人もいるので、コミュニティセンターや図書館からの情報発信というところに力を入れたほうが、身近な地域情報化に繋がるのではないか。</p> <p>ひばりヶ丘駅の周辺については、公共自転車駐車所の整備は、是非大規模なものを造っていただきたい。その際にはデザインにこだわってほしい。保谷北口に新しくできたがデザインがよくない。デザイナーにデザインさせるとか、コンペにするとかいう手法をとられたらどうか。ヨーロッパの都市を参考にされるといい。</p> <p>ペDESTリアンデッキは、うまくいっているところもあるが、中途半端にやると悲惨なことになる。やるのなら渋谷駅の案のように大胆にやらないと、悲惨な結果になる。</p> <p>以上です。</p>
倉持会長	取り入れられるものは、取り入れてください。
H委員	コミュニティバスの運行について。施策の展開2つ目「都市計画道路の整備にあわせた将来運行ルートの増設」ということで、これはよいと思うが、内容をもう少し配慮しないといけない。都市計画道路の路線名がでていますが、コミュニティバスの運行のところでは個所付けは除いて、都市計画道路

	<p>の整備にあわせて新ルートを考えてみたほうがいいのではないか。 もう1つ。ひばりヶ丘駅周辺のまちづくりの推進のところも、施策の展開では箇所をあげずに、実施計画段階で入れるようにしたほうがよい。</p>
倉持会長	都市計画道路の番号が入っているところはなかったか。
倉持会長	修正させていただく。
E委員	(仮称)合併記念公園の名前はいつどうするのか。
池澤主幹	いま募集しております。7月1日か6月15日ごろの市報だったと思います。
F委員	ひばりヶ丘駅に行ったら、南口にはエレベーターをつけるということだった。 エレベーター設置については、市はお金を出しているのか。西武がやっているのか。
池澤主幹	3分の1は市が負担している。
F委員	この計画にそのへんのことはまったく載っていないが、北口にエレベーターを設置するときも、市がかかわって予算が計上されるのか。
池澤主幹	北口については、まだいまのところ計画はない。ここにでている駅前広場の整備、都市計画道路と連結した北口の駅前広場の整備、これが実現できれば、エスカレーターとか、エレベーターの設置は、また西武と連携してできるのではないかと思います。いまの現状であると、エレベーター、エスカレーターの設置はできないということです。南口を今年と来年で終わらせるということです。
倉持会長	よろしいか。 題名を変更して、中身はいただいたご意見に基づいて修正をしていただく。
H委員	合併記念公園の施策の展開4つ目。環境に配慮した施設整備とあるが、省エネということをやっている。今年4月の法改正で、省エネのターゲットは業務ビルと一般家庭の、いわゆる使いすぎ電力を抑えようということ。以前、公園の計画設計をしたとき、太陽光発電を入れたりした。記念公園でも太陽光発電とか、太陽光と風力などのハイブリッドの発電、そういうことを入れていただくことになるのではないか。ここの表現は地球環境にやさしい新エネルギーにしていきたい。 下から2行目も新エネルギーに。
倉持会長	よろしいか。
C委員	リサイクルという言葉がでてくるが、ここで具体的にどういうことをリサイクルととらえているのか。リサイクルが環境にやさしいというイメージとは違ってくると思う。
池澤主幹	調べておきます。

倉持会長	<p>他によろしいか。修正して次回に確認をいただくようにしたい。</p> <p>次回の運営についてだが、今回は本文の修正を行っていくが、10 ページぐらいになるだろうということなので、次回、次々回とあるが、いままでのやり方では、次回に一通りご意見いただいて、次々回はその確認というかたちにしていかないと、無理ではないか。そうすると、今回は 2 時間で終わるかどうかが。遅くなってもかまわないというのであれば、通常の 18 時召集でもよい。または、開会を 17 時に繰上げるか、皆様のご意見を伺いたい。今回は時間がかかりそうだという心配がある。31 日はそんなに長時間でなくてよいと思う。遅くなってもよいということであれば、いままでどおりの 18 時開会にする。よろしいか。それではいつもどおりの時間に開会する。遅くなることをご理解ください。</p>
池澤主幹	<p>今回は、修正前、修正後という比較表で本文の見直ししたものをご審議いただきたいと思います。1 週間ごとに審議会会議を開催していますので、資料につきましては、ぎりぎりのところでお渡しするようになるのではないかと思います。前日までには、必ず届けるようにいたしますので、ご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。以上です。</p>
倉持会長	<p>以上で閉会します。</p>